１年生「グローバル探究」連携授業報告（Ａ講座）

日時：平成２９年１０月４日（水）　１０：３５～１２：２５

場所：高志高等学校学習室

講師：一般社団法人エシカル協会　代表理事　末吉 里花 氏

演題：「私たちの選択が未来を変える～エシカル消費のすすめ～」

対象：本校１年生ＳＧＨ生徒４０名

内容：

１．末吉さんの経験

テレビ番組『世界ふしぎ発見！』で秘境班担当の現地レポーターとなったことが、それまでの考えを変えた。シベリアの村での滞在中、サハラ砂漠 3,000km 縦断中に、地球温暖化の影響を感じた。人生のターニングポイントは、2004 年、アフリカでキリマンジャロに登ったこと。当時、山頂の氷河が溶けてしまうだろうという科学者の予言があり、実際にどのような状況になっているかを見に行った。すると、山頂を覆っていたはずの氷河が、１，２割程度しか残っていないのを目の当たりにした。地球環境の変化に大きなショックを受け、多くの人々に伝える活動を行ってきた。その後、フェアトレードに携わるイギリス人女性と出会った。

２．身の回りにあるモノについて考えよう

現在は、そのモノを誰が、どこで、どうやって作っているかといった背景が分からない社会になっている。私たちの消費行動の裏では、気候変動、環境破壊、人権侵害、貧困など、様々なことが起こっている。

３．「エシカル」とは

モノの背後にある状況に気づくことが非常に大切だ。「エシカル」とは、人・社会・地球環境・地域に思いやりのあるお金の使い方や生き方のこと。例としては、フェアトレード、オーガニック、地産地消など様々なものがある。商品を手にするとき、その裏側にどのような事実が隠されているかを考えるという視点を持ってほしい。「エシカル消費」によって、地球の問題を解決しよう。

４．自治体の取り組み

世界の 30 カ国、1830 の自治体が、フェアトレードタウン認証(2016.7.1 時点)を受けている。これには、ロンドン、パリ、ローマ、ブリュッセル、アムステルダム、ストックホルムなどの首都も含まれる。

日本国内でも、フェアトレードシティ・フェアトレードタウンが誕生している。市民の声、市民活動から始まった動きで、市・町を挙げて地域活性化に貢献しようというものだ。一般市民の行動が社会を動かす実例である。

５．高校生・大学生によるフェアトレードの例

全国の大学で、７０以上のフェアトレードサークルが活動している。そこでは、大学生が自ら売店に企画提案したり、フェアトレード認証製品を導入したりしている。また、学内のイベント（学園祭など）で、フェアトレードの推進やオリジナル商品の開発を行っている例もある。

高校生にできることは限られているかもしれないが、今何ができるか、今後大学・社会に進んでどのような消費行動をとるとよいかを考えてみてほしい。

６．消費者としての責任を

国連で採択されたＳＤＧｓ（持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals）の 12 番目に「つくる責任・つかう責任」というものがある。地元の商店で買い物をする、認証マークを目印に買い物をするなど、消費者としての責任を果たそう。消費は個人的な営みではなく、環境・社会・未来に影響を与える行為である。

例えば、AEON は、「ここでは社会に貢献する商品を売らないのか」という主婦の声から商品を扱うようになった。高校生のみんなも、自分たちの声を届けることで社会を動かす力になるはずだ。